

調査レポート

沖縄県内における2017年プロ野球春季キャンプの経済効果

— 経済効果は過去最高となる109億5,400万円 —

【要 旨】

- ・ 2017年の沖縄県内におけるプロ野球春季キャンプの経済効果は、109億5,400万円となり、2016年の100億400万円を上回り過去最高となった。
- ・ 観客数は、約34万9,000人で過去最高となり、入域観光客数が好調に推移するなか、巨人のキャンプ期間が昨年より延長したことや、日本シリーズ優勝チームやリーグ優勝チームがキャンプを実施したことなどで観客数が増え、前年より約1万7,000人増加した。
- ・ 観客数のうち県外からの観客は約7万900人と推測され前年より約4,900人増加した。
- ・ 今年の経済効果は、前年と同様の球団数でのキャンプ実施だったが、前年に引続き県外からの観客の大幅増による宿泊費や土産・グッズ購入費の増加、飲食費の増加などから過去最高となった。
- ・ また、今年の経済効果を産業別に多い方からみると、宿泊業が20億300万円、商業が12億9,900万円、飲食サービス（飲食店など）が12億7,800万円などの順であった。
- ・ 今年の経済効果を球団別にみると阪神タイガースが35億6,400万円と最も多く、次いで読売ジャイアンツが22億3,000万円だった。
- ・ キャンプ期間中は多くの観客や関係者が来沖し、消費活動を行い、県経済に大きな影響を与えているため、球団の誘致においては、施設の整備や更新をはかり球団側の満足度を高めるだけでなく、ビジネス面でもメリットを感じてもらう必要がある。また、観客や関係者に消費をしてもらう仕組みづくりも重要である。それらの充実を図ることによりプロサッカーやプロバスケットボールなどスポーツビジネス産業全体の発展に寄与していくものと考えられる。

1. 2017年の春季キャンプの概要

(1) キャンプ実施球団の状況

2017年2月に沖縄県内で春季キャンプを実施した国内プロ野球球団は、前年と同じ9球団で、1軍キャンプは9球団、2軍キャンプは5球団であった(図表1)。

今年は、読売ジャイアンツの県内キャンプ期間は16日となり、前年の10日から6日長くなった。

また、日本ハムの名護市営球場でのキャンプは、老朽化に伴う新球場建設のため今年で最後となり、新球場の使用は2020年の春季キャンプからの予定となっている(以下、球団名は「日本ハム」のような略称を用いる)。

(図表1) 沖縄県内における2017年春季キャンプの実施状況

| 球団名 | キャンプ地 | 開催球場 | キャンプ期間 | | 日程 |
|---------------------------|-------|----------------|--------|----|--------------|
| | | | 2月 | 3月 | |
| 北海道日本ハム ファイターズ (2軍) | 名護市 | 名護市営球場 | → | | 2/12~2/25 |
| | 国頭村 | くにながみ球場 | → | | 2/1~2/24 |
| 広島東洋カープ | 沖縄市 | コザしんきんスタジアム | → | | 2/22~3/1 |
| 中日ドラゴンズ (2軍) | 北谷町 | 北谷公園野球場 | → | | 2/1~2/26 |
| | 読谷村 | 読谷平和の森球場 | → | | 2/1~2/27 |
| 横浜DeNA ベイスターズ (2軍) | 宜野湾市 | 宜野湾市立野球場 | → | | 2/1~2/26 |
| | 嘉手納町 | 嘉手納町野球場 | → | | 2/1~2/26 |
| 東京ヤクルト スワローズ | 浦添市 | 浦添市民球場 | → | | 2/1~2/27 |
| 阪神タイガース | 宜野座村 | 宜野座村営野球場 | → | | 2/1~2/28 |
| 東北楽天ゴールデンイーグルス (2軍) | 久米島町 | 久米島野球場 | → | | 久米島町2/1~2/11 |
| | 金武町 | 金武町ベースボールスタジアム | → | | 金武町2/13~2/21 |
| 千葉ロッテ マリナーズ (2軍) | 石垣市 | 石垣市中央運動公園野球場 | → | | 2/1~2/21 |
| | " | " | → | | 2/1~2/26 |
| 読売ジャイアンツ | 那覇市 | 沖縄セルラースタジアム那覇 | → | | 2/14~3/1 |

※球団は沖縄県でのキャンプを始めた年の順で掲載

(2) キャンプ参加者・観客の人数

① 選手・球団関係者・報道陣

今年のキャンプの参加人数は、選手(1、2軍計)・球団関係者は全9球団合計で、前年とほぼ同数の約1,000人となり、報道関係者や解説者が約2,000人(前年比250人増)となった。

報道関係者や解説者は、昨年日本シリーズ優勝チームである日ハムが県内でキャンプを実施したことや、新監督や注目選手のキャンプ参加などから増加した。

②観客数

キャンプ期間中の観客数は、約34万9,000人（オープン戦含む）となった。雨天によりオープン戦が2試合中止となったが、巨人のキャンプ期間が昨年より延長したことや、日本シリーズ優勝チームやリーグ優勝チームがキャンプを実施したことなどで観客数が増え、前年（約33万2,000人）より約1万7,000人の増加となった。

そのうち、県外からの観客数は約7万900人と推測され、引き続き好調な入域観光客数の増加を背景に、注目選手のキャンプ参加などから観客数は増え、前年（約6万6,000人）より4,900人の増加となった。

キャンプ期間中のロッテと台湾プロ野球チームとの交流戦は今年も開催され、多くの観客を集めた。また、韓国プロ野球チームとの練習試合などでは、国内の観客だけでなく、国外からの観客の姿も多く見られた。

2. 経済効果の試算について

(1) 春季キャンプの関連支出額（直接支出額）

キャンプにおいては、県外からの滞在者が県内で宿泊、飲食、娯楽レジャーなどに支出するほか、多くの県民がキャンプ地へ出かけて見学の際に飲食や土産品を購入する。また、受入地の市町村による練習施設等のインフラ整備や、協力会によるキャンプ応援のための関連経費の支出などがあり、これが直接支出額となる。

こうした支出額について試算した結果、総額で71億7,400万円(図表2)となり、前年(65億1,600万円)を6億5,800万円上回った。

試算結果の内訳をみると、宿泊費が20億200万円で最も多く、次いで飲食費が16億1,000万円、土産品・グッズ購入13億700万円、交通費10億5,200万円、娯楽・レジャー費6億5,300万円、練習施設等の整備費1億4,000万円などとなっている。

県外からの観客増加や消費単価の増加により宿泊費（前年比2億2,100万円増）や飲食費（同7,900万円増）、土産品・グッズ購入（同1億3,400万円増）など多くの項目で増加となった。

(図表2) 2017年プロ野球春季キャンプ関連支出額(直接支出額)

| 支出項目 | 支出額 (百万円) | 前年差 (百万円) |
|------------|--------------|--------------|
| 宿泊費 | 2,002 | 221 |
| 飲食費 | 1,610 | 79 |
| 土産品・グッズ購入 | 1,307 | 134 |
| 交通費 | 1,052 | 61 |
| 娯楽・レジャー費 | 653 | 75 |
| 練習施設等の整備費 | 140 | 67 |
| クリーニング代 | 64 | 4 |
| アルバイトへの支払い | 41 | ▲4 |
| 施設等使用料 | 39 | ▲2 |
| その他 | 267 | 22 |
| 合計 | 7,174 | 658 |

(2) 春季キャンプの沖縄県内における経済効果

まず、県内の産業全体の自給率は100%ではないため、(1)で求めた直接支出額71億7,400万円に自給率を掛けると県内で供給された分である 63億3,300万円が求められ、これが直接効果となる。

次に、直接効果である宿泊費、飲食費、交通費、施設整備費などが県内で支出されると、当該産業だけでなく、こうした産業に原材料、サービス等を提供している産業の売上の増加へと波及していく。これを1次間接効果といい、これが 28億3,200万円となる。さらに、直接効果と1次間接効果で生じた各産業における雇用者の所得増加は、これら雇用者の消費支出を増加させ、関連する各産業の生産を誘発していく。これを2次間接効果といい、これが 17億8,900万円となる。

これらの直接効果、1次間接効果、2次間接効果を合わせた金額が 109億5,400万円となり、これがいわゆる県内におけるプロ野球春季キャンプの経済効果となる。

また、これらの効果のうち、賃金等の雇用者所得や企業の営業余剰などに当たる粗付加価値額が 65億1,700万円となり、この中で雇用者所得が 28億6,900万円となる(図表3)。

今年の経済効果である109億5,400万円は、これまでで最も大きかった2016年の100億400万円を9億5,000万円上回り、過去最高の経済効果となった。

なお、今年の経済効果を球団別にみると阪神タイガースが35億6,400万円と最も多く、次いで読売ジャイアンツが22億3,000万円だった

(図表3) 2017年プロ野球春季キャンプ経済効果の試算結果 【単位:百万円】

| | 経済効果 (生産誘発額) | 粗付加価値 誘発額 | | |
|------------|---------------------|--------------|-------------|-------|
| | | 雇用者所得 誘発額 | 営業余剰 誘発額 | |
| 直接効果 | 6,333 | 3,257 | 1,483 | 631 |
| 1次間接効果 | 2,832 | 1,472 | 735 | 382 |
| 2次間接効果 | 1,789 | 1,789 | 652 | 238 |
| 総合効果(経済効果) | 10,954 | 6,517 | 2,869 | 1,251 |
| 直接支出額 | 7,174 | — | | |
| 波及効果 | 1.5(倍)…(総合効果/直接支出額) | | | |

(注) 1. 直接効果は、直接の支出による効果(自給率が100%でなければ移輸入の分、直接支出額を下回る)。

2. 1次間接効果は、原材料を他の産業から購入することによって起こる波及効果。

3. 2次間接効果は、直接効果、1次間接効果によって生み出された雇用者所得の増加が個人消費の拡大を通して再び生産を誘発する効果。

4. 生産誘発額は、直接支出の増加により誘発された各部門の生産額の合計。

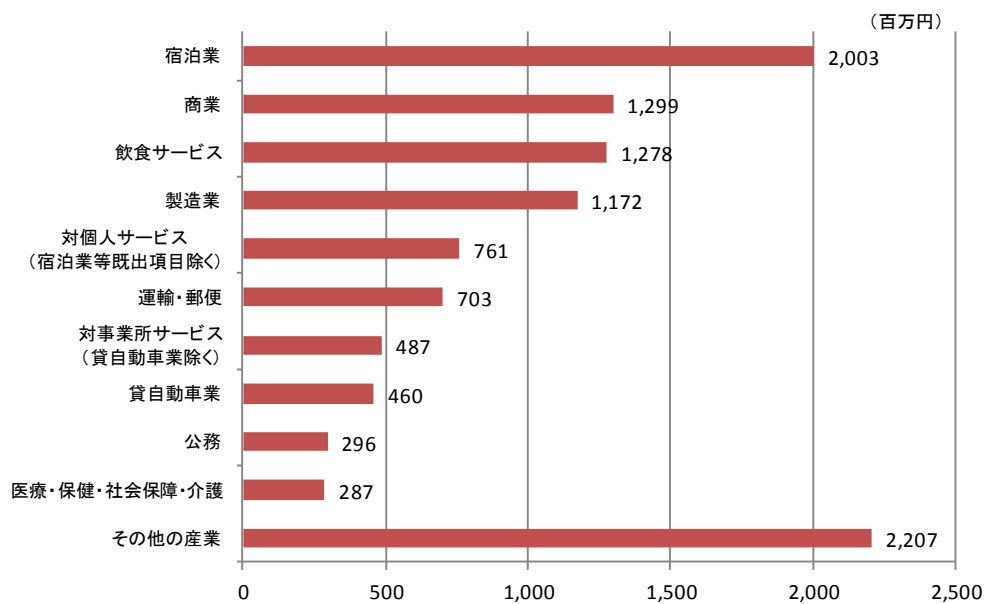
5. 付加価値は、誘発された生産額の中に占める粗付加価値(雇用者所得や営業余剰など)。

6. 端数処理により合計は合わないことがある。

(3) 産業別の経済効果

今年の経済効果である109億5,400万円を産業別にみると、宿泊業が20億300万円と最も大きく、次いで商業が12億9,900万円、飲食サービス（飲食店など）が12億7,800万円、製造業（土産品の製造や食品加工など）が11億7,200万円、対個人サービス（既出項目除く）が7億6,100万円、運輸・郵便が7億300万円の順となっている（図表4）。

（図表4）2017年プロ野球春季キャンプにおける産業別経済効果



3. キャンプ経済効果の課題

今年のプロ野球春季キャンプの経済効果は、109億5,400万円となり、経済効果、観客数ともに過去最高を更新した（図表5）。キャンプ実施の球団は前年と同数の9球団となったが、昨年の優勝チーム効果や巨人のキャンプ期間延長による観客数の増加、多数の注目選手や新監督などを目的に県外から野球ファンが訪れたことにより消費額が増え、前年より宿泊業や飲食サービス（飲食店）、商業、製造業などに与える経済効果が増加した。

経済効果を増やすために球団の誘致は必須だが、そのためには球団の満足度を高めなければならない。要望の多い施設の整備については、名護市営球場が今季をもって全面改装に着手するなど、引き続き改善傾向がみられる。今後も、可能な限り施設整備の要望には対応していくことが望まれる。

その他にも、例えば、県内製造業とのマッチングによる球団オリジナル商品の開発、トレーナーなどのスポーツ関係者とのビジネスマッチングなど、球団側とビジネス面でのメリットを考えて県全体で誘致活動をしていくことも望まれる。

次に、球団の誘致だけでなく観客数や1人当たり消費額の増加も重要となる。他県の事例では、駅を中心にキャンプ地までのシャトルバス（有料）と、キャンプ地を巡るシャト

ルバス（無料）をうまく組み合わせ、キャンプ地での消費を促し、また、球場と商店街をつなぐ道路を整備し、球団の歴史を辿りながら商店街へ誘導する仕組みがなされていた。

県内でも、キャンプ施設内にはパーラーなどの飲食可能な場所や、グッズなどの販売があるが、各施設によって取り組み方に差がみられる。

また、ネットや情報誌（パンフレット）などを使い、地域や飲食店などの紹介がされているが、レンタカーや自家用車での移動が多いため、キャンプ観戦後、他地域へ移動してしまう事も少なくない。

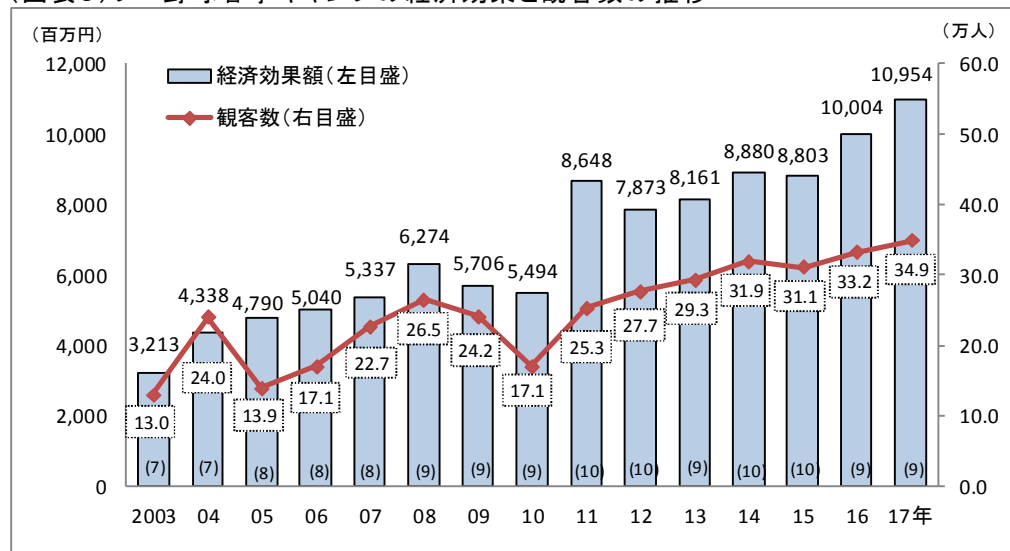
今後は、現地でより多くの消費を行う、または、近隣の商店街や商業施設などへ観客を誘導する仕組みも必要とみられる。

その他にも、石垣島で開催されたロッテと台湾チームとの交流戦のように、本島内でも独自交流戦を開催し、更なる活性化を図ってはどうかという声も聞かれた。

このように、県内でのプロ野球春季キャンプは、一流選手の練習を見学できるだけでなく、多くの観客や関係者が来沖し、消費活動を行い、県経済に大きな影響を与えている。

約1カ月間にわたって春季キャンプというイベントが行われることは貴重なことであり、このような機会をより効果的に活用し、スポーツビジネス産業の成功事例を作ることで、プロ野球だけでなく、プロサッカーやプロバスケットボールなどのスポーツビジネス産業全体の発展にも寄与していくものと考えられる。

(図表5) プロ野球春季キャンプの経済効果と観客数の推移



※()内は沖縄県内でキャンプを実施する国内プロ野球の球団数

以上

【補注1】沖縄県内におけるプロ野球春季キャンプの実施状況

| 暦年 | 日本ハム | 広島 | 中日 | 横浜 | オリックス | ヤクルト | 阪神 | 楽天 | ロッテ | 巨人 | ソフトバンク | 西武 |
|-------------|-----------------------------------|------------|-----------------------------|------------------------|--------------------------|-----------------------|----------------|-------------|------------|------------|-----------------------|-----|
| 1979 | (投手陣) 名護市 | ◎ | | | | | | (○) | | | | |
| 80 | | ◎ | | | | | | (○) | | | | |
| 81 | (一軍) 名護市 ○ | | | | | | | | | ◎ | | |
| 82 | | (一軍) 沖縄市 | ○ | | | | | | | | | ◎ |
| 83 | | | (一軍) 石垣市 | | | | | | | ○ | | ◎ |
| 84 | (一軍) 名護市 (二軍) 宜野座村 | ◎ | | | ○ | | | | | | | |
| 85 | (一軍のみ) 名護市 | | (投手陣) 奥志川市 | | | | ◎ | | | | | ○ |
| 86 | | ○ | | | | | | | | | | ◎ |
| 87 | | | (一軍) 石川市 奥志川市 | (一軍) 宜野湾市 | | | | | | ○ | | ◎ |
| 88 | | | ○ | | | | | | | | | ◎ |
| 89 | | | (一軍) 石川市 (二軍) 奥志川市 | | (投手陣) 糸満市 | | | (○) | (投手陣) 那覇市 | ◎ | | |
| 90 | | | | | (一軍) 糸満市 | | | | | ○ | (一軍) 読谷村 (二軍) 嘉手納町 | ◎ |
| 91 | | ○ | | | (一軍) 糸満市 (二軍) 那覇市 | | | | | | | ◎ |
| 92 | | | | | | ○ | | | | | | ◎ |
| 93 | | | | | (一、二軍) 平良市 糸満市 | ◎ | | | | | | ○ |
| 94 | | | | | (一、二軍) 平良市、糸満市、城辺町 | | | | | ◎ | | ○ |
| 95 | | | | | (一軍) 平良市 (二軍) 城辺町 | ◎ | | | | | | |
| 96 | (一軍) 名護市 (二軍) 宜野座村 | | (一軍) 北谷町 (二軍) うる志市 | (一軍) 宜野湾市 (二軍) 嘉手納町 | ◎ | | | | | ○ | | |
| 97 | | | (一軍) 石川市 (二軍) 読谷村 | | | ◎ | | | | | | ○ |
| 98 | | | | ◎ | | | | | | | | ○ |
| 99 | | | ○ | | | | | | | | ◎ | |
| 2000 | | | | | | (一軍) 浦添市 | | | | ◎ | ○ | |
| 01 | | | | | | ◎ | | (○) | | | | |
| 02 | | | | | | | | | | ◎ | | ○ |
| 03 | (一軍) 名護市 (二軍) 東風平町 | | | | | | (一軍) 宜野座村 ○ | | | | ◎ | |
| 04 | | | (一、二軍) 北谷町 読谷村 ○ | | (一軍) 平良市 (二軍) 平良市、城辺町 | | | | | | | ◎ |
| 05 | | | (一軍) 北谷町 (二軍) 読谷村 北谷町 | | (一軍のみ) 平良市 | | ○ | (一、二軍) 久米島町 | ◎ | | | |
| 06 | (一軍) 名護市 (二軍) 八重瀬町 国頭村 ◎ | | (一軍) 北谷町 (二軍) 読谷村 ○ | | (一軍のみ) 宮古島市 | | | | | | | |
| 07 | (一軍) 名護市 (二軍) 国頭村 ○ | | ◎ | | | | | | | ○ | | |
| 08 | | | | | | | | | (一軍のみ) 石垣市 | ○ | | ◎ ○ |
| 09 | ○ | | | | (一、二軍) 宮古島市 | (一軍) 浦添市 (二軍) 八重瀬町 | | | | ◎ ○ | | |
| 10 | | | ○ | | | | | | ◎ | | ○ | |
| 11 | | | ○ | | | | | | | (一軍のみ) 那覇市 | ◎ ○ | |
| 12 | ○ | | | | | | | | | ◎ ○ | | |
| 13 | | | | | (一軍のみ) 浦添市 | | ◎ ○ | | | ○ | | |
| 14 | | | | | | | | | (一、二軍) 石垣市 | ○ | ◎ ○ | |
| 15 | | | | | (一軍のみ) 宮古島市 | ○ | | | | | ◎ ○ | |
| 16 | ◎ ○ | ○ | | | | | | | | | | |
| 17 | | | | | | | | | | | | |
| 一軍 キャンプ地 | ピオリア 名護市 | 宮崎県 沖縄市 | 北谷町 | 宜野湾市 | 宮崎県 | 浦添市 | 宜野座村 | 久米島町 金武町 | 石垣市 | 宮崎県 那覇市 | 宮崎県 | 宮崎県 |
| 二軍 キャンプ地 | 国頭村 | 宮崎県 | 読谷村 | 嘉手納町 | 宮崎県 | 宮崎県 | 高知県 | 久米島町 | 石垣市 | 宮崎県 | 宮崎県 | 高知県 |

(備考) 1. 太線内のシャド一部分は沖縄県内で春季キャンプを実施。○はリーグ優勝、◎は日本シリーズ制覇。

2. 楽天の列の(○)は、05年からオリックスと合併した旧・近鉄のリーグ優勝。

【補注2】：本調査で使用した産業連関表について

本件調査では、沖縄県の平成23年産業連関表を用いた。産業部門数で表示する部門表は産業分類35部門表をベースにしたが、35部門表ではキャンプにおける主な支出項目である「宿泊業」や「飲食サービス」、「貸自動車業」等の部門が明示されていないので、これらの産業部門については、県が公表した基本分類表(401行×343列)から該当する業種を抽出した。さらに、今回の分析において統合しても不都合がない部門を当社で統合し、本件調査の分析用に組み替えた。

また、産業連関表における各産業部門の自給率は、県内需要(=県内居住者の需要)に対する自給率であるため、移輸出(=非居住者の需要)は対象外となる。このため、統計上、移輸出である「県外からの滞在者の支出(=非居住者の需要)」の経済効果を試算する際に、そのままの自給率を用いると不都合が生じる。例えば、宿泊業の自給率は、県内居住者の宿泊需要(県外旅行等を含む)のうち県内宿泊部門を利用した割合を意味するが、県内居住者の場合、県外宿泊の支出額が県内宿泊の支出額より大きい場合、県内宿泊業の自給率は低くなる。しかし、キャンプ関連の宿泊費や飲食費は全て県内で発生するため、こうした支出に対して県内での自給率が明らかに100%とみられる宿泊業、飲食店などについては自給率を100%に設定し直して使用した。

生産誘発額を求める式は以下のとおりである。

$$X = [I - (I - \bar{M}) A]^{-1} (I - \bar{M}) F$$

X：各産業部門の財・サービスの生産額

I：単位行列

\bar{M} ：県内需要に対する移輸入係数(対角行列)

A：投入係数(行列)

$[]^{-1}$ ：逆行列

F：最終需要額(直接支出額)

※ X(生産額)が、F(最終需要額)に対応する生産誘発額となる